

# 鶴ヶ島市道路舗装修繕計画

個別施設計画(舗装編)

令和 2 年 3 月

鶴ヶ島市

## 目次

### 1.舗装の現状と課題

- 1.1 管理道路の現状
- 1.2 舗装修繕予算の現状
- 1.3 舗装の現状

### 2.舗装の維持管理の基本的な考え方

- 2.1 舗装管理の基本方針
- 2.2 管理道路の分類（グループ分け）
- 2.3 管理基準
- 2.4 点検方法・点検頻度

### 3.計画期間

- 3.1 計画期間
- 3.2 計画期間内の修繕費用の見通し

### 4.対策の優先順位（補修計画の方針）

### 5.舗装の状態、対策内容、実施時期

- 5.1 診断結果
- 5.2 対策内容と実施時期

# 1. 舗装の現状と課題

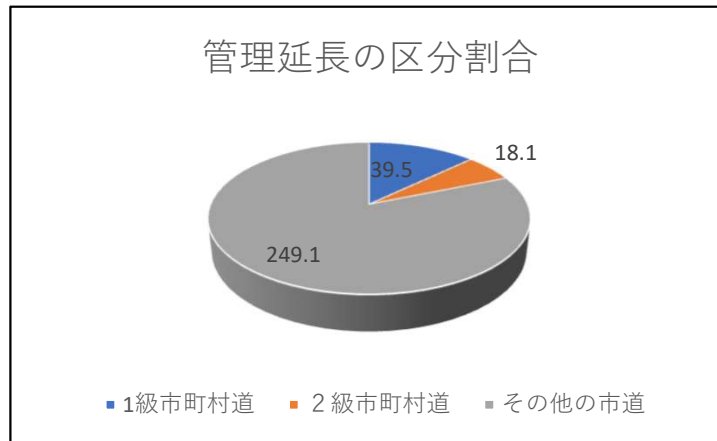
## 1.1 管理道路の現状

鶴ヶ島市で管理している道路延長は、306.7kmであり、舗装延長は270.8kmになっている。

また、舗装率は全体の88.3%になっている。

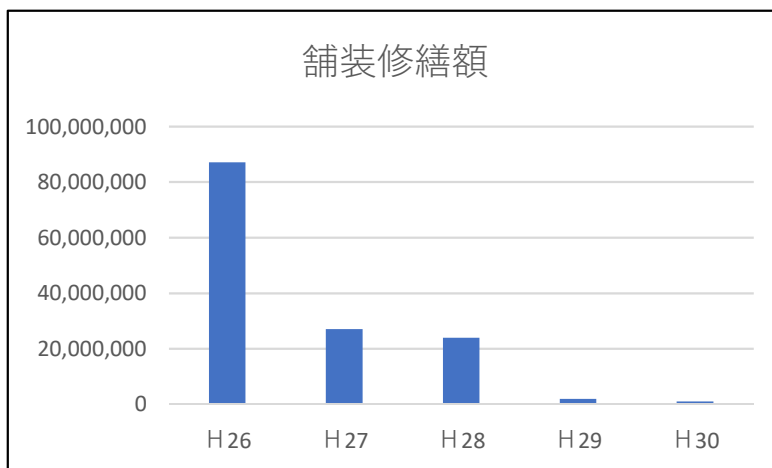
(km) H31.3

道路区分	管理延長	舗装延長	未舗装延長	舗装率(%)
1級市町村道	39.5	39.5	0	100.0%
2級市町村道	18.1	17.4	0.7	96.1%
その他の市道	249.1	213.9	35.2	85.9%
合計	306.7	270.8	35.9	88.3%



## 1.2 舗装修繕予算の現状

当市の道路予算のうち、舗装修繕に関する過去5年間の予算の推移は、平成26年度をピークに減少しており、過去5年間の平均修繕費用額は約28,000千円となっている。



	舗装修繕額
H26	87,085,800
H27	27,086,400
H28	23,976,000
H29	1,944,000
H30	972,000
平均	28,212,840

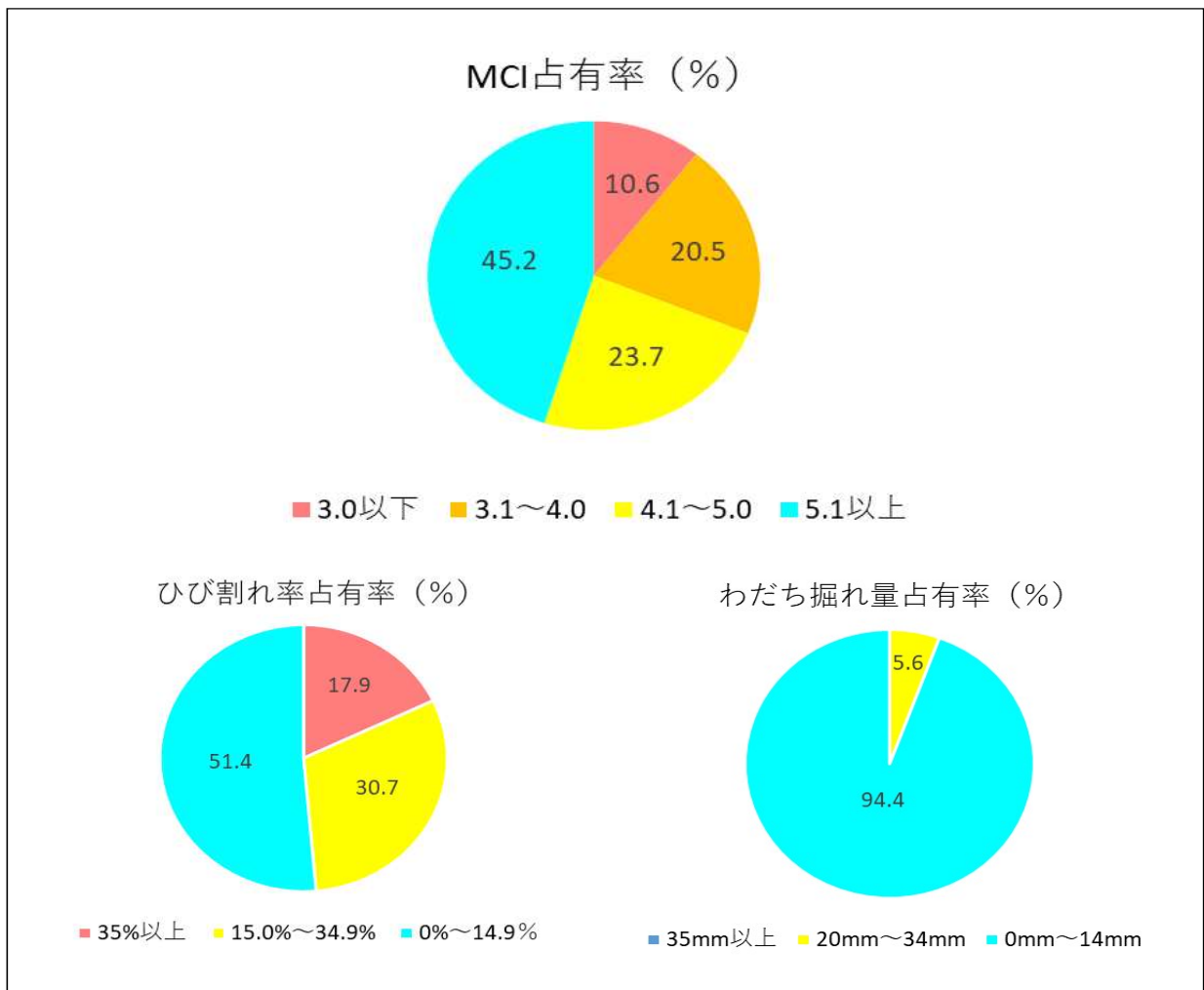
### 1.3 舗装の現状

舗装路面の損傷を把握するために、国土交通省が策定した「総点検実施要領（案）【舗装編】」に基づいて、路面状況を把握するための路面性状調査を実施した。調査の対象として、市内の幹線道路を対象とした約55km（上下線約116km）を実施し、下記のとおり結果になった。

当市の特徴としては、道路表面のひび割れ率がわだち掘れ量に比べ多く見受けられる。

また、舗装の状態を総合的に表すMCIによる評価指数も、修繕が必要な4.0以下の割合が31.1%と高い数値を示しており、速やかな対応が求められる。

MCI (維持管理指数)	3.0以下	3.1~4.0以下	4.1~5.0以下	5.1以上	合計
R1調査 路線延長 (m)	12,250	23,735	27,405	52,355	115,745
維持管理指数に対する延長割合	10.6%	20.5%	23.7%	45.2%	100%



## 2.舗装の維持管理の基本的な考え方

### 2.1 舗装管理の基本方針

道路舗装修繕計画の策定にあたっては、路面性状調査の結果を踏まえ適切な措置を行うことで、道路舗装の長寿命化や舗装の維持修繕費のライフサイクルコスト削減を目指すとともに、長期的な計画により事業費の平準化を図ることを目的とする。

### 2.2 管理道路の分類（グループ分け）

分類Cの道路：1・2級道路及び交通量が多く、舗装の劣化早い主要道路とする。

分類Dの道路：交通量が少なく、舗装の劣化が遅い生活道路とする。

分類	対象道路	管理延長 (km)	全体比 (%)
分類Cの道路	1・2級道路	47.6	17.6%
	その他の道路（主要道路）	7.5	2.8%
分類Dの道路	その他の道路（生活道路）	215.7	79.7%

### 2.3 管理基準

管理基準については、次表に示す管理区分に基づき行う。

分類	管理区分	
	MCI 3.0以下	MCI 3.1～4.0以下
分類Cの道路	早急に修繕が必要	修繕が必要
分類Dの道路	補修が必要とされた時点	

### 2.4 点検方法・点検頻度

市内の道路状況を把握するため、次表に基づいた調査、点検を行うものとする。

	点検方法	点検頻度
分類Cの道路	路面性状調査	5年に一度
分類Dの道路	道路総点検	年1回
	道路パトロールによる路面状況把握	随時

なお、過去に行った路面性状調査と比較し、劣化の進行度の把握を行うものとする。  
また、劣化の進行度が明らかに早い路線については、FWD等を用いた詳細調査を行い、舗装構成の検討を行い修繕工法を決定する。

### 3.計画期間

#### 3.1 計画期間

当該道路舗装修繕計画の計画期間は5年とする。

#### 3.2 計画期間内の修繕費用の見通し

今回実施した路面性状調査を基に、MCI4.0以下と判断され、優先度の高い路線（区間）を抽出し、鶴ヶ島市公共施設等総合管理計画の工事単価に基づき工事費を試算した。

鶴ヶ島市公共施設等総合管理計画（H29.3）一般道路 更新単価4,700円/m<sup>2</sup>を採用

番号	分類	路線名	区分	場所	延長	幅員	単価	金額
①	C	市道57号線	1級	町屋	350	5.5	4,700	9,048,000
②	C	市道40号線	2級	上新田	170	5.0	4,700	3,995,000
③	C	市道656号線	その他 (幹線)	富士見	500	5.0	4,700	11,750,000
④	C	市道432号線	2級	高倉	900	7.0	4,700	29,610,000
⑤	C	市道801号線	2級	脚折町	480	6.0	4,700	13,536,000
⑥	C	市道1205号 線	その他 (幹線)	三ツ木新 町	450	7.0	4,700	14,805,000
⑦	C	市道9号線	1級	下新田	290	7.0	4,700	9,541,000
⑧	C	市道1-1号線	1級	高倉	940	6.0	4,700	26,508,000
⑨	C	市道5号線	1級	太田ヶ谷	1350	7.0	4,700	44,415,000
⑩	C	市道933号線	その他 (幹線)	松ヶ丘	160	5.0	4,700	3,760,000
五カ年での修繕計画の合計額								166,968,000
一カ年当りの平均工事額								33,393,600

#### 4.対策の優先順位（補修計画の方針）

舗装損傷状況、路線の重要性等を考慮し補修の優先度を決定する。

対象路線の舗装損傷状況(MCI)により、損傷度の高い路線（区間）の選定を行った後、路線の重要性、通学路の利用度、管理頻度などを勘案、数値化し修繕箇所を決定する。

##### ・優先順位の決定方針

MCI数値を基に修繕路線を選出し、その後次表の加算し修繕順位を決定する。

項目	区分	点数
路面性状調査 MCI値による 優先順位	1～5位	10
	6～10位	9
	11～15位	8
	16～20位	7
	21～25位	6
	26～30位	5
	31～35位	4
	36～40位	3
	41～45位	2
	46～50位	1
	51位以下	0
通学路 利用度	5割以上	3
	3～5割	2
	3割未満	1
交通量	不特定交通多	3
	朝晩以外地域 住民利用多	2
	地域住民 利用のみ	1
管理頻度 (修繕回数)	5回以上	3
	3～5回	2
	2回以下	1

## 5.舗装の状態、対策内容、実施時期

### 5.1 診断結果

令和元年度に実施した約55kmの診断結果は以下のとおり

(Km)

	区分Ⅰ	区分Ⅱ	区分Ⅲ		
				Ⅲ-1	Ⅲ-2
分類Cの道路	26.2	13.7	18.0	11.9	6.1

区分Ⅰ：MCI 5以上、区分Ⅱ：MCI 4.1～5.0以下

区分Ⅲ-1：MCI 3.1～4.0以下、区分Ⅲ-2：MCI 3.0以下 として区分している。

### 5.2 対策内容と実施時期

別図のとおり

番号	分類	路線名	区分	場所	延長(m)	点検実施期間	診断結果	措置内容	措置実施時期
①	C	市道57号線	1級	町屋	350	R1	Ⅲ	切削オーバーレイ	令和2年
②	C	市道40号線	2級	上新田	170	R1	Ⅲ	舗装打替え	令和2年
③	C	市道656号線	その他(幹線)	富士見	500	R1	Ⅲ	舗装打替え	令和2年
④	C	市道432号線	2級	高倉	900	R1	Ⅲ	切削オーバーレイ	令和3年
⑤	C	市道801号線	2級	脚折町	480	R1	Ⅲ	舗装打替え	令和4年
⑥	C	市道1205号線	その他(幹線)	三ツ木新町	450	R1	Ⅲ	舗装打替え	令和4年
⑦	C	市道9号線	1級	下新田	290	R1	Ⅲ	舗装打替え	令和5年
⑧	C	市道1-1号線	1級	高倉	940	R1	Ⅲ	舗装打替え	令和5年
⑨	C	市道5号線	1級	太田ヶ谷	1350	R1	Ⅲ	切削オーバーレイ	令和6年
⑩	C	市道933号線	その他(幹線)	松ヶ丘	160	R1	Ⅲ	舗装打替え	令和6年